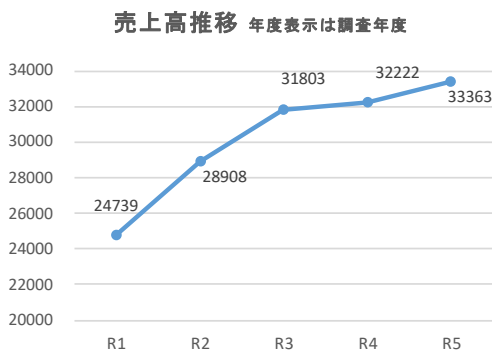


ソフト系IT企業実態調査結果概要（令和5年度版）

1. 調査対象 協会会員社及びソフトビジネス研究会会員社等
有効回答社 75社（非ITを含めた全有効回答社78社）
売上に関する有効回答社（IT）66社、経常利益に関する有効回答社（IT）62社

2. 主な調査結果（以下数値はソフト系IT企業分）

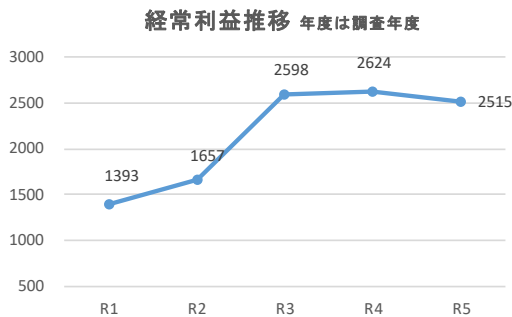
(1) 売上高



売上額は、前年比3.5%11億円増加の334億円であり、過去最高値を引き続き更新した。リモートワークやDX等ITに対する需要の存在に伴う需要が背景にある。

前年比で増収となった企業が前年度58%から64%に増え、県内IT業界全体に好況がひろがっている。特に、従業員50人以上、売上10億円以上のクラスの企業での売り上げ増加が顕著である。

(2) 利益



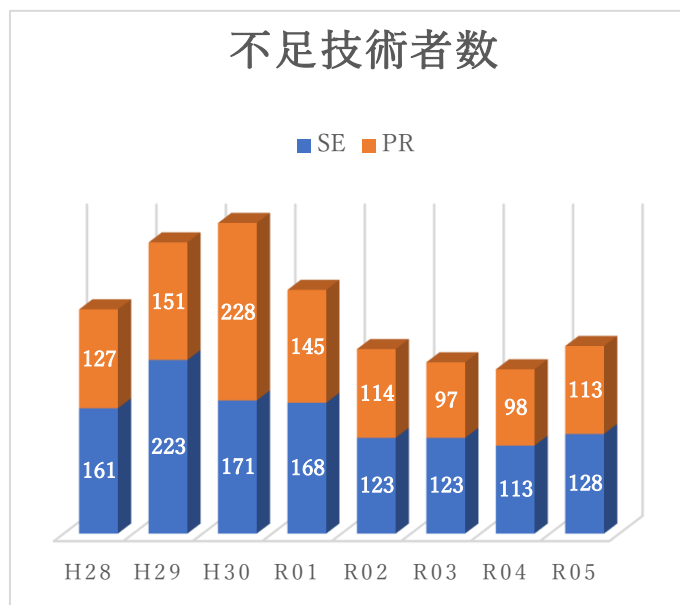
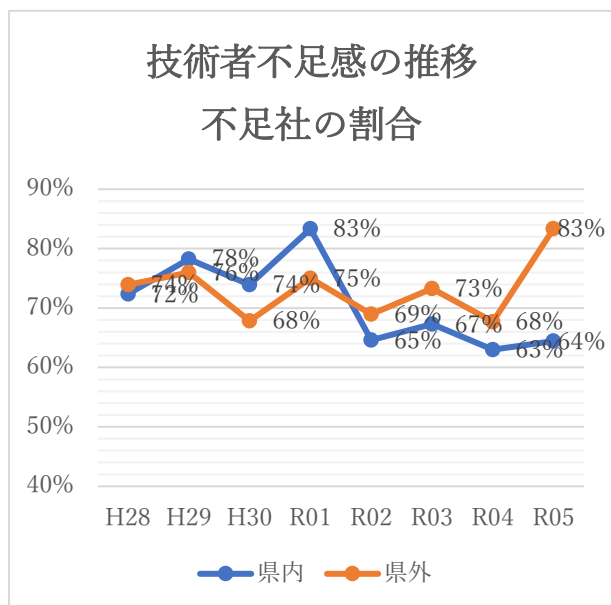
利益は、4.1%減少の25億円であった。光熱水費の続騰や人材確保のための人件費など経費の上昇により、利益の減少につながったものと考えられる。

(3) IT従事者数



県内IT事業従事者は、4%67人増の1,784人となり、過去最高値を更新した。慢性的な技術者不足であるIT業界で、コロナ流行による業況悪化懸念による人材採用の手控えが終わり、堅調な人材確保の動きとなっている。

(4) 人材不足感



調査に応じた IT 企業が不足と感じる技術者は、システムエンジニア 128 人、プログラマー 113 人の計 241 人である。不足技術者数は、近年の低下傾向から一転、令和 5 年度調査では増加となった。不足感を持つ企業の割合を本社所在別でみると、全体は、72% であるが、県内本社企業ではこの率が 64% である一方、県外本社企業では 83% であり、県外本社 > 県内本社の傾向が一層顕著となった。また、規模別でみた場合、従事者 30 人以上の IT 企業全社で不足を訴えている。

(5) Ruby 関連

非 IT 企業を含め Ruby エンジニア総数は 499 人で 1 人の減少となった。Ruby アソシエーション (RA) 認定技術者は、8 人増加の 355 人である。IT 企業における Ruby による開発売上は 1% 減少の 19 億円である。Ruby が占める割合をみた場合、売上高、システム開発件数でみると、売上割合では 6%、開発件数割合は 20% とほぼ前年度並みである。

